

11月8日(月)「あいさつをしっかりとしよう」

先週の金曜日であいさつ運動が終わりました。代表委員のみなさん、各クラスの「あいさつ名人」のみなさん、本当にお疲れ様でした。毎朝すばらしいあいさつでしたね。「あいさつ名人」のみなさんは、さすが名人というだけあるなあと感じました。

さて、日本語のあいさつは、元々どんな意味だったのでしょうか。そのルーツをたどってみると、あいさつのことがもっとよく分かりそうです。そこであいさつについて調べてみました。

日本では、朝に人と出会うと「おはよう」とあいさつをしますね。これは、朝自分よりも早く来ていた人に対して、後から来た人が「お早いですね。お元気で何よりです。」という意味を込めて「お早うお越して」などと声を掛けていたのが始まりだそうです。

「こんにちは」は「今日」を「こんにち」とも読むので、「今日(こんにち)は良いお天気ですね。」「今日(こんにち)はごきげんいかがですか。」などと昼間出会った人に話し掛けていた言葉の後半部分が省略されて、昼間に人に会ったときのあいさつとして定着しました。

では、夜のあいさつ「こんばんは」は、どんな意味があるのでしょうか。「こんばんは」は「今晚は一日を無事に終えて、いい夜になりましたね」という意味なのです。こちらも後半部分が省略されていますね。

日本人のあいさつはこのように、相手の無事を喜ぶ言葉が簡単になったものなのです。昔の人がいかに相手に対する思いやりを忘れなかったかよく分かりますね。あいさつ運動は先週で終わりましたが、これから先も、あいさつをしっかりとしていきますよう。

それではこれでお話を終わります。(礼)

